

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	経営戦略研究科・経営戦略専攻
大項目	1 教育研究上の目的
中項目	
小項目	1.0.1 教育研究上の目的
要素	「教育研究上の目的」をグローバル化時代の要請に応えた国際的に通用する高度専門職業人育成に配慮した内容のものとしているか。 「教育研究上の目的」をステークホルダーの意見を反映した内容のものとしているか。 「教育研究上の目的」は、学校教育法第99条第2項の「高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培う」の規定から外れるものではないか。 「教育研究上の目的」を受審校の発行する印刷物等、例えば、学則、入学案内、授業要覧及び履修要綱等に、また、ホームページに掲載し、周知公表を図っているか。
小項目	1.0.2 「教育研究上の目的」の重要な要素
要素	「教育研究上の目的」は、企業等組織のマネジメントに関する高度の専門知識・技能及び基礎的素養を修得する内容のものとなっているか。 「教育研究上の目的」は、学生のキャリア形成に寄与する内容のものとなっているか。 「教育研究上の目的」は、所属教員の教育研究活動の推進に寄与する内容のものとなっているか。
小項目	1.0.3 「教育研究上の目的」の継続的な検証
要素	「教育研究上の目的」を検証する組織的な体制が整備されているか。 「教育研究上の目的」の継続的な検証に必要な資料の収集及び管理の体制を整備しているか。 「教育研究上の目的」の検証プロセスにステークホルダーの意見を聴取する機会を設けているか。
小項目	1.0.4 「教育研究上の目的」の達成に必要な財務戦略
要素	「教育研究上の目的」の達成のために必要な財政的基礎を有しているか。 「教育研究上の目的」の達成のために必要な資金調達戦略を立てているか。 「教育研究上の目的」の達成のために必要な予算措置をしているか。

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. In order to meet the needs of globalized age, cultivate the efficient business human resources understanding multiple cultures and having high ethical sense in terms of relation with stakeholders. グローバル化時代の要請に応えるため、多文化を理解し、ステークホルダーとの関係において高い倫理観を備えた有能なビジネス人材の育成	→Satisfactory level of the graduates and of the persons in charge of personnel section of the organization that hired our graduates. 修了生の満足度と修了生を雇用している組織の人事担当者の満足度	A	A	A	A	
2. Provide appropriate education required for worldclass managerial candidates with focused functional expertise. (国際的に通用する専門領域を持ったマネージャー人材に必要とされる教育の提供)	→a. Number of students from various backgrounds and countries. (様々な経歴と国籍をもつ学生の数)	A	A	A	A	
	→b. Number and proportion of entering students who have working experience. (就労経験のある入学者の数と割合)	A	A	A	A	
	→c. Examine and encourage efforts by faculty to conduct and present/publish research and to use their research interests to stimulate their teaching. (教員の研究活動や研究発表への取り組みを把握、促進し、研究成果を活かして教育成果の向上を図る。)	A	A	A	A	
3. Enhance the linkage with Accounting School. 会計専門職専攻との連携強化	→BSとASの複数教員が担当し、両専攻に共通して提供する科目数	A	A	A	A	

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」		2009	2010	2011	2012	2013
	→	⇒	/	/	/	/	/
	→	⇒	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	英語でビジネスを遂行する能力を養成している国際経営コースの留学生や日本人学生と、実務経験豊富な企業経営戦略コースの社会人学生が、共に英語で議論することを通じて、言葉や文化の壁を越えてグローバルなマネジメント能力養成を試みる「ハイブリッド科目」を3科目に増やした。
目標2	学生は現場の担当者から経営者まで幅広い経歴を持ち、国籍も様々である。教育成果の向上を図るために、教員が互いに授業内容を発表するFD研修会を2012年度は5回開催した。
目標3	会計専門職との合併科目を2012年度は2科目開講した。また、会計専門職専攻の専任教員が授業を担当する形での連携を強化している。
備考	